

【 第26回男子世界選手権 】

2019年1月10日～1月27日 開催地:ドイツ、デンマーク

試合結果報告 1 月 14 日 (月)

JPN	VS	ESP
11	前半	10
11	後半	16
22	合計	26

個人得点

No.	名前	得点	合計
7	宮崎 大輔	2	2
13	笠原 謙哉	1	1
15	部井久 アダム 勇樹	0	0
16	甲斐 昭人	0	0
18	成田 幸平	1	1
19	徳田 新之介	7	7
20	渡部 仁	1	1
21	土井 レミイ 杏利		0
24	信太 弘樹	2	2
25	元木 博紀	3	3
26	久保 侑生		0
27	玉川 裕康	1	1
29	岡元 竜生		0
31	吉野 樹	2	2
33	東江 雄斗	2	2
44	門山 哲也		0
			22

戦評

第3戦目の相手は、本大会ヨーロッパ予選1位のスペインとの対戦。前日のクロアチア戦の成果と課題を活かし、いかに密集して守り失点を最少限に抑えるか、粘り強くワイドに攻める攻撃を目標に、各自が「今できることに集中」できるかをテーマに試合に臨んだ。

そのテーマに集中した日本は、立ち上がりからディフェンスが機能し、スペインにプレッシャーをかけ続けた。渡部や元木が得点する間にGK甲斐がファインセーブを連発、10分経過時は3対1とリードを奪った。その後両GKの好セーブからロースコアで一進一退の攻防が続くが、戦術を徹底しテクニカルミス減らした日本が、徳田のパスフェイントからの得点で抜け出し、11対10と1点リードで前半を折り返した。

後半開始直後、スペインは9番ENTRERRIOSらの得点で逆転、開始7分には16対12となった。しかし、ここで慌てずにディフェンスを徹底しGK甲斐との連携を取り続けた日本は、東江らの得点により2点差に詰める。その後も会場一杯に響き渡るジャパンコールの中、宮崎らの得点で追いかけたが、スペイン21番CANELLASの力強いシュートなどを決められて点差を詰めることができず、22対26の4点差で破れた。

決定的な場面のシュートミスや、速攻の場面での押し切る力強さなど、まだまだ課題の残る部分もあるが、世界のトップを相手に自分たちのプレーを信じて徹底することの大切さを学ぶとともに、今後の日本代表の戦い方のベースとなる試合内容であった。次の試合でも日本代表のなすべきプレーを目指し、さらなる成長を狙った戦いを行っていく。

報告記入者 : 舍利弗 学